

昭和54年度 第3回シグマ研究委員会運営委員会議事録

日 時 昭和54年8月24日(金) 13:30～17:00
場 所 原研東海研 研2棟222号室
出席者 塚田(委員長, 日大), 中嶋(法大), 関(MAPI), 松延(住友原工), 大竹(動燃), 飯島(NAIG), 宮坂(核管セ), 原田, 五十嵐, 菊池(康)(原研)
オブザーバ : 浅見(哲)(原研)

配布資料

1. 前回(54.7.10)議事録(案)
2. 第18回原子力総合シンポジウム資料
3. 「昭和54年分科会」応募発表論文の分類別内訳, 核データ・炉物理合同特別会合
4. NEA Data Bank Committee, SEN/DATA/M(79)1
5. ニュークリアデータ株式会社よりの依頼状
6. Dr. Way から中嶋宛手紙
7. Atomic Data and Nuclear Data Tables への投稿規定

議 事

1. 前回議事録確認
資料(1)により確認を行った。
2. 事務局報告
 - (1) 55年度予算の原子力局査定
五十嵐委員より概要について説明があり, JENDL-3 関係の予算が削られたことが報告された。
 - (2) プロGRESS・レポート
浅見(哲)氏よりPROGRESS・レポートのまとめ作業の状況について説明があった。本年は41件で104頁程度になる。

3. 2年報

飯島委員より進行状況について説明があった。すでに依頼状を発送し、菊池委員がとりまとめることになっている。11月号に掲載の予定である。

4. 原子力総合シンポジウム

松延委員より資料(2)にもとづき学会企画委での討議結果について説明があった。学会より出す主張テーマは「TMI事故と我が国の対応」になったこと、一般テーマの「ポストINFCE問題」は見送りになったことが報告された。その他の核データ関係のタイトル・講師の候補について討議を行った。

5. 学会特別会合

松延委員から資料(3)により、核データ・炉物理合同特別会合のプログラムの紹介があった。

6. 研究会

近く世話人の会合を開き、検討をすゝめてもらうことにした。

7. 人事

(1) 五十嵐委員から資料(5)により、ニュークリアデータ(株)から大坪氏を遮蔽定数WGに参加させたい旨の依頼のあったことが紹介され審議を行った。営業活動のための参加は困ること、give and takeが前提になる等の意見があり、WGリーダー(宮坂委員)と本人とで話し合った上で決めることにした。

(2) 中嶋委員より崩壊熱評価WGに原研の井原均氏(高速炉設計研)をWGメンバーに加えたいとの要請があり了承された。

8. Atomic Data and Nuclear Data Tables 誌への投稿

中嶋委員より資料(6)をもとにDr. Wayから、ADNDT誌への投稿について依頼のあったことが紹介された。

9. JENDL-2の現状

菊池委員よりJENDL-2作業の現状について説明があった。JUPITER計画に関連ある8核種については整備を終え²³⁸U以外についてはベンチマーク・テストのため群定数化を行った。8核種以外の核種の整備は若干遅れていることが報告された。

10. NEANDC 会合の打合せ

塚田委員長より、NEANDC 会合では JENDL-2 の進行状況、new facility について説明する予定であること、また Dr. Pearlstein に会って ENDF/B-V の公開について質す予定であるとの説明があった。また、topical discussion に提出する論文の紹介があった。

11. 核データセンターの将来構想に関連して

塚田委員長より、近く中国の原子能研究所を訪問するに当り、regional center のことを踏まえてどう対応するかとの発議があり、討論を行った。その結果、regional center のことを持ち出す前に実績をつくる必要のあること、中国との学术交流を盛んにするのが先決であること等々の意見が出た。

12. NEA Data Bank

五十嵐委員より資料(4)にもとづいて、NEA Data Bank の将来計画の概要の解説があり、その中でこれに対する日本側の意見を10月末迄に出す必要があるとの説明があった。この件については、次回の運営委員会で各委員の意見を持ち寄って討議することにした。

13. Regional Conference

塚田委員長より NEANDC 会合で Regional Conf. についての日本の意見を聴かれる可能性があるとの説明があり、討議を行った。出された主な意見は：具体的な案をつくって議論すべきである。原研が事務局にならざるをえないので、原研で予算獲得をする必要がある、まず小規模の会合をやってみてから大きい会議を考えるべきである等々であった。その結果、意見を求められた場合には、小規模の会合なら可能であるが、大きな会議は、無理であると返答することにした。

14. 核データニュース

浅見(哲)氏より、最近、核データの専門誌についての要望の多いことの紹介があり、核データニュース誌と核データ専門誌との関連、核データニュース誌の今後の方向等について討議を行った。核データ専門誌(例えば「核データ研究」)の発行については賛意が多いことから、次回までに浅見氏が

具体案をつくり継続して審議することにした。

次回は、9月21日（金）13：30より原研本部で行う予定。